

7.27 (体験)

型枠を使った雪の造形 (雪で動物の形を作る)

秋田谷 英次 (北の生活館・雪氷ネットワーク)

キーワード：積もった雪の性質，雪玉になりやすい雪，木製型枠

多くの遊園地には砂場があります。穴を掘ったり山を作ったりいろいろな遊びができます。砂に較べて雪は押しつけると固まるので、もっと複雑な形のものができます。リスやウサギなどの形を型枠を使って作りましょう。

使う道具：

厚さ1cm位の合板と2cm位の2枚の合板を準備します。厚紙に動物の絵を描きはさみで切り取ります。この型紙を使って2枚の合板に動物の絵を描きます。

糸鋸で動物などの形を作りますが、厚い合板で動物の抜けがらを、薄い合板で動物そのものの型を糸鋸で切り出します。

動物の作り方：

抜けがらの型枠に雪を軽く詰め、時々動物の型で押し固めます。抜けがらの隅々まで雪を詰め、最後に動物の型で押し出すと動物の形をした雪の固まりができます。

注意：

雪の種類によって上手くできたり、できなかつたりします。手で握って簡単に雪玉になる雪は上手くできません。どんな雪が固まりやすいか調べて見ましょう。春先の粒が大きい雪やすごく寒いときの雪は、なかなか固まりません。



型枠で抜き取ったウサギ

7.28 (体験)

六角ナットで雪の結晶をつくろう

大鐘 卓哉 (小樽市総合博物館)

キーワード：雪の結晶，六角形

雪の結晶を虫めがねやルーペでよく観察すると、六角形が基本になっていることに気づきます。雪は水蒸気が昇華凝結した結晶で、6個の水の分子が結びついた六角形の基本構造になっています。この六角形の結晶構造が、雪の結晶の六角形と関係があると考えられています。

手順：

- ①6mm ボルト用の六角ナットをたくさん用意します。
- ②次ぎに、雪の結晶の写真(台紙)の上に、以下のことに気をつけて六角ナットの側面が合わさるように並べていきます。
 - ・ 中心から六方向に対称
 - ・ 六方向の枝のそれぞれが左右対称
 - ・ 枝から分かれる小枝の角度は60度
 (実際の雪結晶は、完全に対称形になることはありません)



注意：

せっかく置いた六角ナットを「そで」で崩してしまわないように気をつけましょう。